

# 営農情報 (大豆)

令和3年6月11日

(大豆営農情報 6月号)

J A福岡大城・南筑後普及指導センター

大豆の収量向上には「適期播種」が重要です。7月10～20日に播種ができるよう早めの準備を行ってください。

耕起後に降雨にあうと、しばらくの間トラクタ作業ができなくなります。適期播種のためには、事前の耕起は行わず、荒起こしと播種を「組み作業」で行うか、「部分浅耕一工程播種」を行いましょう。

## 1 ほ場の準備

○雑草対策:播種前雑草対策として、ラウンドアップマックスロードを、100～200倍希釈で散布します。  
(効果を高めるためにできるだけ100倍希釈)

### ○土づくり

- 大豆の適正pHは6.0～6.5です。  
※投入量の目安:炭酸苦土石灰、ミネラルG(160～200kg/10a)
- 有機物の投入が必要です。麦わらは全量すき込みましょう。

### ○排水対策

- 麦作時の周囲溝を排水溝に繋ぐなど、表面排水を徹底しましょう。
- 麦作後は土壌の亀裂により地下透水性が十分高いため、大豆播種前の弾丸暗渠やプラウ施工等は不要です(過度の排水対策は夏季の乾燥害を助長します)。

○施肥:基肥としてPK化成40号(30kg/10a)を施用します。

## 2 播種

○種子消毒は、キヒゲンを種子10kg当たり100g粉衣または、キヒゲンR-2フロアブルを種子10kg当たり200ml塗布します。

薬剤名	処理量	備考
キヒゲン	種子10kgに100g粉衣	ハト害、紫斑病
キヒゲンR-2フロアブル	種子10kgに200ml塗沫処理	ハト害、紫斑病

### ○播種時期と播種量

播種時期	7月10～20日(適期播き)	7月21日～(遅播き)
播種量	3～4kg/10a	6～8kg/10a

### ○播種深度

播種の深さの目安は3cmとし、土壌の水分状態に応じて調整し、土が乾燥している場合はやや深めとします。

### 3 雑草防除（令和3年5月の登録情報に基づいて作成）

使用時期	薬剤名		10a当たり 使用量	10 a 当たり 希釈水量	備考
耕起前	ラウンドアップ マックスロード		200～500ml	50～100L	100～200倍液（効果 を高めるために できるだけ100倍） となるよう調整
播種後 ～出芽前まで	乳剤	ラクサー乳剤	400～800ml	100L	いずれか 一剤を 使用
		プロールプラス乳剤 ※イネ科雑草多発ほ場	400～600ml	70～150L	
	粒剤	サターンバアロ粒剤	4～6kg	—	
		ラクサー粒剤	4～8kg	—	

※イヌビユ、ホソアオゲイトウ、ホオズキ類に対しては、ラクサー乳剤かプロールプラス乳剤にフルミオWDGを5～10g/10a混ぜて使用するとより高い効果が得られます。使用後は、専用の洗浄剤で散布器のホースやノズルをよく洗浄します。



<イヌビユ幼植物>



<ホソアオゲイトウ>



<ヒロハフウリンホウズキ>

#### 農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！